

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：12501

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26893040

研究課題名(和文) 精神疾患をもつ母親が体調管理をしながら行う育児を促進する看護援助指針の開発

研究課題名(英文) Development of Nursing intervention Guide Promoting Parenting in Mothers with Mental Health Conditions

研究代表者

金丸 友 (Kanamaru, Tomo)

千葉大学・看護学研究科・助教

研究者番号：20400814

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、精神疾患をもつ母親が自身の体調を管理しながら行う育児を促進する看護援助指針を作成することを目的とした。精神疾患をもちながら乳幼児の育児をしている母親とその家族員に対し、体調管理をしながら行う育児とサポートについて面接調査を行った。サポート体制によって母親の体調管理、育児、子どもの成長発達に相違がみられ、家族員のサポートが重要だった。また、家族員も母親へのサポートを継続するためには、周囲のサポートや理解を必要としていた。母親の体調管理を基盤とし、体調に合わせて育児をすること、母親役割を認識できることが重要であり、また、家族員に対するサポートも重要であることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study were to develop nursing intervention guide promoting parenting in mothers with mental health conditions who were raising children. Data were collected using semi-structured interviews with those mothers and their family members concerning parenting, managing mental health conditions, and support for mothers. This study identified parenting and illness management patterns according to support for mothers. These findings suggested that support for mothers were necessary to both parent and to manage mental health conditions. Arranging environment to support mothers were significant interventions. It was also necessary to support family members to help mothers and to rest. Fulfilling mothers' maternal roles were also important.

研究分野：看護学

キーワード：精神疾患をもつ母親 育児 サポート

## 1. 研究開始当初の背景

精神疾患をもつ母親は、疾患管理の難しさや内服による影響のため、育児に困難をきたすことがある。精神疾患をもつ妊婦は分娩週数が早いこと<sup>1)</sup>、出生時体重が低いこと<sup>1)</sup>、帝王切開率が高いこと<sup>1)</sup>、服薬のため母乳率が低いこと<sup>1)</sup>、児の催奇形性<sup>2)</sup>が言われており、周産期管理や育児の難しさが示されている。また、児童虐待のリスクも指摘されている<sup>3)</sup>。周産期や出産後に母親の精神症状が再燃や悪化することで育児が困難になることもあり、家族や地域のサポートや専門家の支援が重要である。また、精神疾患の管理が施設から地域へと移ったり、社会状況の変化から、精神疾患をもつ女性が妊娠する機会が増えている。精神疾患をもつ女性に対する妊娠や育児への支援の必要性が高まっている。先行研究は主に産科や新生児領域の専門家が行っており、それらの多くは精神疾患をもつ妊婦の周産期の特徴である。これらの先行研究においても退院後の育児支援の必要性について言及しているが、具体的な支援について述べたものはほとんどなかった。また、母親の育児体験について明らかにした研究も、国内外を通して少ない。

以上のことから、精神疾患をもつ母親が自身の体調を管理しながら行う育児や体調を管理しながら行う育児に対する必要なサポートや支援を明らかにし、母親が体調を管理しながら行う育児を促進する看護援助指針を作成することは、意義のあることと考えた。

## 2. 研究の目的

- (1) 精神疾患をもつ母親が体調管理をしながら行う育児と母親に対するサポートや支援を明らかにする。
- (2) 精神疾患をもつ母親が体調管理をしながら育児を行うことに対する家族員の関わりを明らかにする。
- (3) 精神疾患をもつ母親が体調管理をしながら行う育児を促進する看護援助指針を作成する。

## 3. 研究の方法

### (1) 用語の定義

本研究では、「サポート」を家族や地域からの専門家以外の関わりで、母親や家族員が有難かった、有用であったと感じたものとし、「支援」を医療者などの専門家や市町村などが提供している子育て支援サービスなど、専門家による関わりとした。

### (2) 研究対象者

子どもの NICU 退院後のフォローアップ外来受診のために来院している母親のうち、精神疾患を有し、かかりつけ医のフォローを受けながら地域で社会生活しており、かつ、乳幼児の子どもを育児している母親を対象者とした。子どもの状態としては、現在特別なケアや処置が必要ではない子どもとした。

また、母親とともに子どもの診察に同行し

ている家族で、健康状態が落ち着いており、研究参加によって母親の体調や育児への影響が少なく、研究参加への同意が得られた家族員も対象とした。

### (3) データ収集方法

精神疾患をもつ母親が体調管理をしながら行う育児や育児支援に関する文献検討を行い、以後に実施する面接調査や看護指針作成への視点を抽出した。

母親に対し、「体調管理をしながら行う育児に関する思い」「体調管理をしながら育児をする上で困難を感じたこと」「実際の育児状況」「自らの体調管理の方法と実際の体調」「体調を管理しながら育児を行う上でありがたかったサポート・支援」「体調を管理しながら育児を行う上で必要としていたサポート・支援」について面接調査を行った。

児の診察に母親とも来院している家族員に対し、「母親が体調を管理しながら育児を行うことに対する思い」「母親が体調を管理しながら育児をするために家族員が行っていること」「母親が体調を管理しながら育児を行うために必要なサポート・支援」について面接調査を行った。

診療録から、子どもの成長発達、社会的資源、家族構成などについて収集した。

### (4) 分析方法

面接内容から逐語録を作成した。母親との面接からは、「母親が体調を管理しながら行う育児に関する思い」「母親が体調を管理しながら行う育児に関する困難」「母親が体調管理をしながら行う育児」「母親が体調管理をしながら育児を行うためのサポート・支援」について述べられている文脈を抽出し、表にまとめた。また、家族員ごとに「母親が体調管理をしながら育児を行うことに対する思い」「母親が体調を管理しながら育児を行うために家族員が行っていること」「母親が体調管理をしながら育児をするために必要なサポート・支援」について述べられている文脈を抽出し、表にまとめた。そして、ケース毎の特徴を検討した。

その後、全体分析として、各ケース間で比較し、類似性や相違性を検討し、精神疾患をもつ母親が体調管理をしながら行う育児や母親に対するサポートの特徴について検討し、看護援助指針を導き出した。

### (5) 倫理的配慮

調査を行うにあたり、所属施設の倫理審査委員会で承認を得た。対象者の選定には施設のスタッフと連携をとり、研究参加による体調や育児への影響がないと思われる母親とし、研究参加への同意を得た。面接後も施設のフォローがあった。

## 4. 研究成果

### (1) 対象者の概要

20代後半から40代前半の母親9人より研究参加への同意を得た。その内、6名が統合失調症であった。子どもが二人いる母親が2

名で、他は今回が初めての育児であった。子どもの年齢は、1ヶ月から3歳で、1名のみ疾患があったが、現在特別な治療やケアが必要ではなかった。

家族員は、30代前半から50代前半の3名の夫と60代後半の実母1名から研究参加への同意を得た。

(2)精神疾患をもつ母親が体調を管理しながら行う育児と母親に対するサポートについて

母親のサポートの知覚、体調管理、育児の特徴から、母親が体調管理をしながら行う育児と母親のサポートについて、3つの様相が明らかとなった。

母親のサポートの知覚が少なく、育児に精一杯で自分のことが後回しになり、体調が管理しにくいケース

3ケースが含まれた。夫や親が育児を手伝ってくれたり、夫や専門家が相談のしてくれることもあるが、育児や家事のサポートは少ないと母親はとらえており、母親は育児を手伝ってくれる人や相談できる人を必要としていた。平日は殆ど母親が家事や育児を行っているとして述べた。そして、産後よりずっと疲れが続いており、子どものことが忙しく、自分の体調を気にする余裕がないことを述べた。体調管理としては、内服くらいであると述べた。育児が子どもの成長発達に合わないことがあり、3ケースとも子どもの成長発達が要観察であった。

親のサポートは得られないが、夫が育児休暇をとったり、子育て支援サービスを導入することで、家族なりの方法で母親の体調を管理しながら育児を行っているケース

2ケースが含まれた。母親は、自分一人ではできないから、周りの人に支えられてやっていくしかないととらえていた。そして、親のサポートが得られない中、夫が育児休暇をとって家事や育児をサポートしていた。夫が育児休暇から復職したケースでは、保育所を利用していた。夫ができるだけ家事をサポートしてくれるため母親は育児に専念することができ、育児の中心は母親であった。母親の体調が悪いときは、夫が育児を代わっていた。2ケースとも産後間もなく子育て支援サービスを利用しており、必須だったと述べた。しかし、サービスの助成制度がなくなり、利用をやめたり母親の体調悪化時のみ利用していた。母親は夫や専門職に相談できており、相談できる環境を必要としていた。産後間もなくは母親の体調は悪かったが、現在は体調管理のために睡眠・休息や内服、食事に気をつけることができ、体調はよかった。子どもの成長発達は、順調に発達しているケースと要観察のケースがあった。

親や夫のサポートを受けながら、体調管理や育児が行えているケース

4ケースが含まれた。母親は、同居する親や育児休暇をとった夫のサポートを受けており、休息を取ることができていた。母親は

睡眠・休息や内服、食事に気をつけることができ、産後間もなく体調が悪かったが、現在はよかった。3ケースは家族が家事を支援してくれるため、母親は育児に専念できていた。また、家族の育児へのサポートもあり、母親は自分ができる範囲で育児をしていた。一方、親のサポートをありがたいと思いつつ、自分でやりたいという思いをもっている母親もいた。母親の体調が悪いときは家族が育児や家事をしてくれており、体調が悪くなってもサポートしてもらえると安心感があった。全ケースが家族や専門職が相談のしてくれると述べ、相談先があることが安心感につながっていた。サポートがないときに子どもの成長発達に合わない育児になることもあったが、3ケースの子どもの成長発達は順調であった。

(3)精神疾患をもつ母親が体調管理をしながら育児を行うことに対する家族員の母親に対する関わりについて

3名の夫と1名の実母からの面接より、以下の家族員の関わりと家族員が必要としているサポートが抽出された。カテゴリーを【】で示す。

家族員の母親に対する関わりについて  
【自分が不在時のサポート・支援体制を調整する】

家族員は、自分が仕事で不在のとき、自分の育児休暇が終わった後、自分が手伝いに行けない日など、家族員が母親とともにいられないときのサポート・支援を調整し、母親の育児環境を整えていた。具体的には、親にサポートを依頼したり、保育園や訪問看護師、市町村の行っている訪問子育て支援サービスなどの専門家の支援を導入していた。

【育児について具体的にアドバイスする】

家族員は、母親が困らないように、子どもにあった育児方法を自らの体験で見出し、母親に具体的に伝えていた。

【家事や育児を手伝う】

家族員は仕事等が忙しい中、家事や育児を代わりに行っていた。

【母親の体調を気遣う】

家族員は母親の体調を気遣い、母親の体調を気にしたり、休息できるように育児や家事を行ったり、母親の話を聞いたり、母親が自分の時間をもてるようにするなど、母親の体調が管理されるように関わっていた。

【母親の大変さを理解し、受け入れる】

家族員は自分自身の負担が高まる中、一番大変なのは母親であることや疾患や治療による症状を理解し、受け入れようとしていた。

【母親のできているところを認める】

家族員は、母親が母親なりに頑張っていていたり努力しているところを認めていた。

【母親にサポート・支援を受けながら育児する必要性を伝えた】

家族員は、母親が一人で育児をしていくことが難しいため、サポート・支援とともに育

児をしていく必要性があることを伝え、サポートを受け入れるよう促していた。

家族員が必要としていたサポート・支援について

家族員は自分の生活と母親への関わりを維持していく中で、家族員自身も周囲のサポートや専門家の支援を必要としていた。

【母親の体調管理に対するサポート・支援が必要】

家族員は、子どもや育児に対するサポートや支援はあるが、母親の体調管理や自分の母親への関わり方に関するサポート・支援がほとんどないことを述べ、必要としていた。妻が体調管理に関して相談できる窓口や家族員が母親への関わり方に関して相談する窓口、家族会での情報交換などを望んでいた。

【家族員に対するサポート・支援が欲しい】

家族自身も責任のある仕事をする中、母親の体調管理や家事、育児への援助をしており、家族員も負担が高まっていた。家族員自身へのサポート・支援も必要としていた。

【育児休暇を取得しやすい環境が必要】

夫は育児休暇を取ったことを肯定的にとらえており、必須だったことを述べた。しかし、職場の理解がなかったり、育児休暇に関する情報が少なかったことを述べ、育児休暇を取りやすくする環境や効果的に取るための情報を必要としていた。

(4)精神疾患をもつ母親が体調管理をしながら行う育児を促進する看護援助指針

以上の結果から、精神疾患をもつ母親が体調管理をしながら育児を行うために、以下の看護援助が導き出された。

母親が体調管理をしながら育児をするためには、母親の体調管理が基盤にあった。母親の体調が管理されることで子どもに沿った育児をすることができ、そして、育児をしながら体調が安定していることで、家事を行うことができていた。さらに、体調管理、育児、家事ができることで、社会へ生活の場を広げることができていた。また、母親が周囲のサポートや専門家の支援を受け入れながらも、母親役割を認識できることが、重要であった。

したがって、母親の体調管理が看護援助の基盤になると考えられる。母親が体調管理をできるように、母親が休息できるよう育児や家事を分担する環境を整えたり、母親が受診できる環境を整えたり、母親自身が自分の体調を把握して自己管理出来るようにすることなどが重要である。また、母親の体調に合わせて育児をしてもらうことが大切で、困難が軽減するよう母親にあった具体的な育児方法を伝えたり、相談出来る体制を整えて行くことが重要である。母親が子どもを育てて行く上で、母親役割を認識できることが重要であり、母親の頑張っているところや出来ているところを認めることや、体調が落ち着いたら母親なりに参加できることから育児に関わってもらうことも重要である。母親や家族は、家族内のサポートだけでなく、専門

家の支援や育児支援サービスを利用しており、これらの重要性を述べていた。また、家族員自身へのサポート・支援を望んでいた。したがって、母親が体調管理をしながら育児をするためには、専門家の支援や育児支援サービスの導入が必要である。また、家族員が母親をサポートを継続できるよう家族員へのサポート・支援が重要となる。妊娠中から継続した母親と家族への支援が重要である。

本研究は精神疾患をもつ母親や家族員の体験をもとに導かれた看護指針である。先行研究では困難については明らかにされているが、支援について述べた研究は少なく、看護援助指針を導いたことは意義があると思われる。母親と家族員の双方から面接調査を行った研究はほとんどなく、家族看護の視点でも意義があると思われる。また、今後、精神疾患をもちながら育児を行う女性が増えることが予測される。本研究は支援する際の一助になると考えられる。

今後は、看護援助指針の検証や、背景の異なる母親や家族員に対する面接調査などが必要であると考えられる。

[引用文献]

- 1) 佐々木綾, 岩佐弘一, 松尾精記, 平杉嘉一郎, 岩破一博, 北脇城: 精神病合併妊婦の周産期管理についての検討. 女性心身医学, 17(2), 206 - 212, 2012.
- 2) 西澤治, 近藤毅: 精神疾患合併妊娠. Modern Physician, 32(10), 1239 - 1243, 2012.
- 3) 星野裕子, 永野玲子, 船倉翠, 武内務, 品川寿弥, 林瑞成, 渡辺とよ子: 当院における出産後虐待予想ケースへの介入について. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 49(1), 248 - 255, 2012.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 0件)

[学会発表](計 2件)

Tomo Kanamaru, Family support for parenting by mothers with a mental health conditions: Perspectives of mothers and their families, 19<sup>th</sup> East Asian Forum of Nursing Scholars, 2016.3.14~15, 幕張メッセ(千葉県・千葉市).

金丸友、精神疾患をもつ母親が体調管理をしながら行う育児と母親に対する周囲からのサポートや専門家の支援について、一般社団法人日本小児看護学会第26回学術集会、2016.7.23~24、別府コンベンションセンタービーコンプラザ(大分県・別府市)。

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

金丸 友 (KANAMARU, Tomo )  
千葉大学・看護学研究科・助教  
研究者番号：20400814